

義肢の技術 + 運動靴のセンス =

# リハビリ用 スニーカー



「リハワーク」を手にする澤村社長(右)と有吉社長—  
神戸市長田区神楽町

## 機能とデザイン両立

足に障害のある人が履くスニーカーを、神戸市内の義足・福祉用具の製造販売「澤村義肢製作所」(澤村靖子社長)と運動靴メーカー「ラッキーベル」(有吉英二社長)が作った。同種の靴はリハビリの機能が重視されがちだったが、両社の製品はファッション性などを加味。運動靴らしい軽快な歩き心地を追求している。(山本哲志)

### 神戸の2社共同開発

日本義肢協会(東京)によると、足に障害のある人向けの靴は、足を支える役割も求められるため、硬い革靴が主流。スニーカーもあるが、義肢委員会が作る 경우가多く、色やデザインにこだわったものは少ない。

運動しやすく、おしゃれな靴を作りたいと考えた澤村社長は知人の紹介で知り合った有吉社長に相談。義肢と運動靴という互いのノウハウを詰め込み、二年がかりで布製スニーカー「リハワーク」を完成させた。

地で、ベージュにオレンジ色のラインを施したデザイン。内側は革で補強し、装具の金具で布が破れるのを防いでいる。

澤村靖子社長は、「足が不自由でも、この靴が気軽に外出するきっかけになれば」と話している。

七千五百円。同製作所 ☎ 078・575・3310

歩行を補助する装具を足に着けたままでも着脱しやすいよう、開口部をつま先付近まで広げた。中敷きなども普通の運動靴に使っている素材を使用。スニーカーならではの歩きやすさを実現した。

通気性のいいメッシュ